

産業構造審議会2050経済社会構造部会(第4回)

多様で柔軟な働き方の拡大



株式会社ポピンズ

代表取締役社長 轟 麻衣子



多様で柔軟な働き方の拡大のために

① ライフステージにあわせたキャリアチェンジを可能に

女性やシニアの就業率を高めるために、ライフステージにあわせてキャリアチェンジできるよう、多様で柔軟な働き方を認める

ポピンズの例：子育てをキャリアとして認め、柔軟な働き方を提供。

- **出戻り（再雇用）3回までOK**
 - 再雇用から執行役員やGMになっている
- **自身のライフステージにあわせた職種の選択が可能**
 - ベビーシッター、保育士、ケアスタッフのトリプルライセンス推奨
 - ベビーシッター付保育園
 - 保育士が空き時間にベビーシッターのスキルを習得
- **時短・シフト勤務も可能**
 - 保育士の時短勤務者 約100名



多様で柔軟な働き方の拡大のために

② 人生100年時代のキャリア形成を企業がサポート

採用にあたっての年齢制限を設けず、シニアでも働ける仕事を創出

ポピンズの例：入社・登録にあたり年齢制限なし。チャレンジしたい人を応援。

● 60歳以上 1,264名活躍・・・働きたいだけ働ける

	60歳以上	内) 70歳以上	内) 80歳以上
保育士・子育てサポーター	345	61	4
ナニー	721	109	0
ケアスタッフ	198	45	0
合計	1,264	215	4

● 65歳の保育士 2019年4月1日 新入社員として入社

公立の小学校教諭、副校長で定年後、幼保小の連携が大切との思いから保育士資格を取得



【提言】多様で柔軟な働き方をいっそう拡大するために…

1. 保育の現場において国と民間が連携し、三重県の「介護助手」のような取り組みを推進する。一旦キャリアを中断した人や退職後のシニア層にとってチャレンジできる多様な働き方が提供できる。

<疾病・介護予防に関する政策提案より>

三重県では、介護現場において高齢者を「介護助手」として周辺業務を担ってもらうとともに、介護職員の専門職化につなげる取り組みを推進

- 保育士の業務を、①国家資格が必要な業務、②国家資格がなくてもできる業務（調乳・オムツ替え等）に切り分ける
- 認可保育所は保育士しか働けないが、業務と役割を明確化することで、保育士資格を持っていない人の就労機会が拡大する
- 子育て経験は貴重なキャリア。キャリアを活かせる職場として保育園を選び、働きながら保育士資格を得ることもできる。
- 国が積極的にICT化（午睡・検温・お散歩時の見守りセンサー等）を推進することで、シニアが働きやすい職場となり、活躍の場が広がる
→介護でも活用が可能



【提言】多様で柔軟な働き方をいっそう拡大するために・・・

2. 社会保障・税の見直し

- 人生100年時代にあった新たな社会保障・税の見直し
 - 2018年度より、控除を受ける納税者本人の合計所得金額が1,000万円を超える場合は、配偶者控除は受けられなくなったが、さらに働き方改革の一環として女性やシニアの労働意欲を税制で後押しするような事も考えてはどうか。
 - 例えば、人生100年控除。リカレント教育の経費の一定割合を税額控除する等。

3. ベビーシッター控除の導入

- 育児中の女性が労働市場に戻る際の、労働意欲を税制で後押しする例の一つとして考えてはどうか。